

## 第7回 日本 TRIZ シンポジウム 2011 発表者の皆さま

2011年6月13日

日本 TRIZ 協会

シンポジウムプログラム委員会

中川 徹・小西慶久

このたびは、TRIZ シンポジウムに発表をお寄せいただき、ありがとうございました。  
先日来ご案内しておりますように、基調講演 1 件、特別講演 1 件、チュートリアル 1 件、テーマ講演 5 件、一般発表 32 件（うち海外 8 件）を受理いたしました。

ここに、プログラムを編成し、参加者募集の要項をまとめましたので、本日づけで、Web で公表（日本 TRIZ 協会の公式ホームページ、および『TRIZ ホームページ』内の TRIZ 協会のページに掲載）し、TRIZ 協会会員および一般の TRIZ 関連メーリングリストによるメール案内を行い、同時に発表者の皆さまへの連絡を行っております。和文だけでなく、英文での公表や連絡もあわせて、いろいろなものが前後することがあるかと思いますが、ご了承下さい。

さて、プログラムや参加者募集の全体の情報は、上記の公表情報を参照いただくようお願いしまして、ここには、発表者の皆さま全員へのお知らせを記述させていただきます。[なお、特別な事情がある方には個別のメールを別途発信しております/今後いたします。]

(1) 投稿いただきました発表は、概要とその説明を読ませていただき、そのスコープや内容を判断して全件を問題なく受理し、発表いただくことにいたしました。それぞれに優れた発表をお寄せいただきましたことを感謝しております。

(2) 多数の発表をそれぞれにしっかりと聞き、討論できるように工夫をしております。招待企画では、第 1 日のセミナーの日に日本語トラックとして、チュートリアル 1 件とテーマ講演（国内 5 件）を設けております。また、第 2 日に基調講演（海外 1 件）、第 3 日に特別講演 1 件をお願いしました。十分な発表と質疑応答の時間をとりたく、時間配分は個別にお願いしましたとおりです。講師をお引き下さいました方には、どうぞよろしく願いいたします。

(3) 一般発表につきましては、オーラル発表をすべてダブルトラック 40 分（発表 30 分+討論 10 分）とし、一方、ポスターセッションは各 6~8 件並行を予定して、紹介込みの 80 分で 2 セッションといたしました。オーラル/ポスターの別は、発表申込みの皆さまのご希望を尊重いたしましたが、オーラル希望の方が多かったため一部の方には変更をお願いいたしました。

具体的な割り当ては、Web 掲載のプログラムをご覧ください。

この割り振り、および時間帯の設定に関しましては、どうぞご了承いただきたく、お願いいたします。もし、特にご都合の悪いことがありましたら、できるだけ早くお知らせ下さい。

(4) 今回発表しましたものは、5 月 24 日の締切で、プログラム編成会議の前に受理したものに限定しております。毎年、少し遅れた発表申込みの希望が寄せられること、申込み済みのものにもやむを得ぬ事情で原稿提出ができなかったり、出席できなくなったりする人があること、発表日程の変更を申し出る人があること、などのために、当日までに 3~4 段階でのプログラム調整をしております。今年もそのような調整が予想されますが、ご理解賜りたく存じます。

(5) 特に今年は、(別紙に詳細を記述しておりますように)7月5日締切で追加募集をして、限定した数の優れた発表を積極的に受け入れることにいたしました。今年は、大震災の影響もあり、国内企業からの発表がやや少なく、特に海外からの発表がまだ余り来ておりません。追加募集により、内容的により充実させたいと考えております。

追加で受理したものは、ポスター発表の並行度の増加(8件/セッション程度)、およびオーラル発表の時間の短縮(40分→35分など)による枠の増加(最大4件程度)によって吸収する予定でおります。

(6) このあと、7月25日(月)18:00の締切りで、発表用の最終原稿を提出いただきたく、お願いいたします。いまから、一ヶ月半程しかありませんし、社外発表許可などのお手続きが必要のことと思います。ご多忙の中ですみませんが、よろしくご願ひいたします。

(7) 最終原稿の提出物は、テーマ講演/オーラル発表とポスター発表とで大きく違います。提出物の一覧、使用する書式、枚数制限、英訳版の要/不要など、「最終原稿の提出要領」をご覧ください。この提出要領は、基本的には2月の「発表募集要項」の内容と同じですが、細部の修正・補足をして「発表募集要項 兼 最終原稿提出要項」として、Web掲載し、また念のために本メールに添付しております。

(8) スライドなどの英訳版の提出をお願いしており、通常の学会などよりもご負担をお掛けしていることと思います。この、英訳スライドを投影し、USBメモリのProceedingsに収録することは、海外のTRIZリーダたちや実践者たちが来日して発表し、そして有益なシンポジウムだったと評価してくれるために重要な要素です。また、皆さんの仕事が海外でも評価されるための基本となるものです。この点をご理解いただき、英訳版の作成にご努力いただけますと幸いです。

英訳の推敲支援を、皆さまのご希望に応じて、昨年度と同様に事務局とボランティアの方の協力で、できるだけ行なっていくよう準備しております。ただ、事務局のキャパシティを超える状況になってきておりますので、御社内やグループでできるだけ練った原稿を提出いただけますようお願いいたします。

(9) 上記に関連しまして、いま事務局では、皆さまおよび皆さまの周辺の方々からのボランティアでのご協力を求めています。具体的には、

(a) 当日の討論における通訳。(逐次通訳、英→和、和→英の両方向)

(海外発表者の場合と国内発表者の場合がある)

(b) 国内発表者のスライドの英訳支援、英訳推敲支援

(c) 海外発表者のスライドの和訳

(d) 海外参加者対応(特に、メール応答と滞在中のアテンド)

の仕事があります。それぞれにタレントとお時間をお願いする案件ですが、今回のTRIZシンポジウムの成功、ひいては日本のTRIZの一層の発展のために寄与いただけるものです。どうぞよろしくご協力いただけますようお願いいたします。

(10) 今回は、会場とホテルが離れているため、参加者間の交流の時間を意図的に確保する必要があります。第1日の夕食と「グループ討論」(約2時間)、第2日朝の「プレセッション」での自己紹介、第2日の夕食&交流会などを有効に使いたいと考えています。特に「グループ討論」のためのテーマの設定とコーディネータの役割を発表者の皆さまにお願いしたいと考えております。具体的なテーマややり方を(個別の案で結構ですので)ご提案いただけないでしょうか?

(11) 第1日には、日本語トラックと並行して、英語での **Simon Litvin** のセミナーを行います。世界をリードしている **TRIZ** マスターの6時間のトレーニングセミナーですので、ぜひ積極的にご参加いただけますよう、お願いいたします。

(12) 今年も皆さまのお蔭で充実したシンポジウムができます。発表者の皆さんにはできるだけ全日程ご参加いただきたく、お待ちしております。原発問題が長引いている中で、海外からも発表や参加をしてきてくれておりますので、世界の **TRIZ** の最先端の人たちと交流いただきたく存じます。

(13) 今年のシンポジウムの最大の課題は、大震災後の重要な課題が山積している中で、**TRIZ** が使える／有効なのだと、われわれ自身の実証し、そして一人でも多くの人々に実感していただくことだと思っております。どうぞ、皆さまのまわりの人たちに参加を呼びかけていただきたく、お願いいたします。

皆さまの発表を得て、充実した **TRIZ** シンポジウムになるものと大いに期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

敬具